

若手研究者による国際研究連携プロジェクト

EAA Art History Seminar in English



東アジア藝文書院

【日時】 2021年2月8日（月）

16:30~19:00

【場所】 オンライン開催（事前登録制）

<https://forms.gle/ksiBwDVuNBLbWp8C7>

*フォームにアクセスできない場合、<info@eaa.c.u-tokyo.ac.jp>までご一報を

【言語】 英語 *日本語による解説が要所所で入ります

16:30-16:40 企画趣旨説明：若澤佑典（東京大学）
16:40-17:20 Lecture 1：趙可卿（中山大学西湾学院）
“The Hidden Renaissance: Arts or Political Discourse?”

17:20-18:00 Lecture 2：古川萌（東京大学）
“Commemorating Great Artists in Their Native Land:
Tombs and Epitaphs for Artists in 16th-century
Florence”

18:00-18:10 休憩
18:10-18:25 応答：高山花子（東京大学）
18:25-18:40 パネリストによるディスカッション
18:40-19:00 全体討議

*フロアからのコメントは、テキストで受け付けます

趙可卿先生プロフィール：

カリフォルニア大学バークレー校訪問研究員を経て、ヨーク大学で博士号取得。現在、中山大学助理教授。

古川萌先生プロフィール：

ニューヨーク大学卒業後、京都大学大学院で博士号取得。現在、東京大学特任研究員。

EAAでは、これまで「哲・史・文」の三方面から、地域や領域を横断する知の在り方を模索してきました。こうした探求の中で、イメージや「かたち」に対する問いが、若手研究者の間で共有されていきました。

今回の国際セミナーでは、ルネサンス研究者のお二人をお招きし、15世紀～16世紀のフィレンツェについて、アートと社会／文化領域の関わりを意識しながら、縦横無尽に放談していただきます。われわれ一人一人の専攻領域と美術史の接点、そして協同可能性を見出す機会になればと思っています。

本企画ではオンライン上での、国際的な研究連携の構築を目指しています。専攻領域を問わず、英語を用いた討議に触れてみたい、その雰囲気慣れてみたいという、若手研究者および大学院生・学部生の方の参加をとりわけ歓迎します。

【主催】

東京大学東アジア藝文書院（EAA）

<https://www.eaa.c.u-tokyo.ac.jp/>
info@eaa.c.u-tokyo.ac.jp

企画担当者：若澤佑典
運営委員会：前野清太郎、高山花子

【運営協力】

歴史家ワークショップ
<https://historiansworkshop.org/>